

新潟県立看護大学 看護研究交流センター

# 「生涯学習支援事業」

平成 15 年度



新潟県立看護大学  
看護研究交流センター

Niigata College of Nursing





## 新潟県立看護大学 開学2周年記念講演

—講演テーマ—

「地域に根ざした  
看護の発展をめざして」

みなみ ひろ こ  
講師 **南 裕子氏**  
兵庫県立看護大学学長



—対論テーマ—

「地域に根ざした  
看護の発展をめざして」

兵庫県立看護大学学長 **南 裕子**  
新潟県立看護大学学長 **中島 紀恵子**

平成15年

期日

**7月26日(土)**

プログラム

講演 ● 13:00～14:00

対論 ● 14:00～15:30

入場料:無料

聴講ご希望の方は、  
7月23日までに電話、  
FAXまたはe-mail  
で参加人数をお知  
らせください。

講師のプロフィール

PROFILE

【学歴】

1965 高知女子大学家政学部衛生看護学科卒業(看護学学士)  
1972 イスラエル国ヘブライ大学医学部公衆衛生学修士課程修了(MPH)  
1982 カリフォルニア大学サンフランシスコ看護学部博士課程修了(DNSc.)

【職歴】

1973～1980 高知女子大学教員 (講師・助教授)  
1982～1992 聖路加看護大学教員 (教授)  
1993～現在 兵庫県立看護大学学長(教授)

【学会・社会活動】

◇日本看護協会会長  
◇日本災害看護学会理事長  
◇日本看護学教育学会理事  
◇厚生労働省医道審議会委員

【著書】

□看護大辞典(共同総編集) 医学書院2002  
□G.B.George(編)看護理論集(共訳) 日本看護協会出版会1998  
□看護における研究(編集・執筆) 日本看護協会出版会1999 改訂

【賞罰】

2001 Distinguished Alumni Award  
University of California San Francisco, School of Nursing



新潟県立看護大学学長  
**中島 紀恵子**



# 「看護とジェンダー」

私たちは男女いずれかの性を有し誕生してきます。持って生まれた性(生物学的性-sex)は育ちゆく環境の中でジェンダー(社会・文化的性-gender)をも包含しつつ生きています。皆様はなぜ介護の負担は女性に多くかかるのか、などと考えたことはありませんか。昨年度に引き続き、社会の中の女性の問題を健康と看護の側面から皆さんと一緒に考えてみる機会をつくりました。どうぞご参加ください。

受講料は無料です

会場：新潟県立看護大学

開催日時	テーマ	講師	講義内容
<b>第1回</b> 平成15年 <b>7月12日(土)</b> 13:00~14:30	性暴力被害者と看護ケア	<b>加納 尚美</b> (かのうなおみ) 茨城県立医療大学 助教授	「性暴力」は、強姦、強制わいせつ、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどを総称する言葉として使われています。あまり語り合われることもなくこれまできている性暴力被害の実態とともに、主に保健・医療の場での看護ケアの必要性和概要についてお話ししたいと思います。
	ケアの原理とジェンダー	<b>朝倉 京子</b> (あさくらきょうこ) 新潟県立看護大学 助教授	伝統的にケアの仕事は、その大部分を女性が担ってきました。そしてケアは、愛情を前提とした無給の仕事であるか金銭的価値の低い仕事であり、一般的な家事と同様にシャドウワークと位置づけられてきました。そもそもケアとは人間にとってどのような意味をもつ営みであるのか、そしてケアの仕事は現代社会のなかでどのように発展すべきなのかを、ジェンダーを踏まえて考えます。
<b>第2回</b> 平成15年 <b>8月30日(土)</b> 13:00~14:30	こどもの虐待はなぜ起こる	<b>小林 恵子</b> (こばやしけいこ) 新潟県立看護大学 講師	今、子どもたちが閉鎖的な環境の中で、養育力が乏しい親に育てられている場面を目にするが、養育者の育児負担感や育児不安は家族だけでは解決できなくなっている。このような育児不安や子どもの虐待をめぐる環境と防止を支援する地域の役割について考えたい。
	ナイチンゲールの看護観と女性	<b>水口 陽子</b> (みずぐちようこ) 新潟県立看護大学 講師	ナイチンゲールには一般に「クリミアの天使」というイメージがありますが、実際の彼女は鋭い洞察力でつかみとった健康に関する論理に確信と熱意を持ち、信念を実現することに生涯情熱を燃やし続けた人です。女性が本来持っている力を発揮する必要性を痛感し、「女性はだれもがナースである」と女性に呼びかけています。彼女の女性観と看護観について時代背景、生活環境などに関連付けながら考えていきたいと思います。
<b>第3回</b> 平成15年 <b>9月27日(土)</b> 13:30~15:30	女性の視点からみた生殖技術	<b>柘植あづみ</b> (つげあづみ) 明治学院大学 教授	子どもを望んでいるのにできないという状況におかれているカップル、特に女性は深く苦しみます。しかし、一方ではそれに鈍感に「早く子どもをつくりなさい」とか「子どもがいらないような人は一人前ではない」と言ってさらに傷つける人がいて、他方で子どもができないのは「不幸なこと」だから代理出産でもクローンでも子どもがもてるようにすべきだという人も少なくありません。この講座では、なぜ女性が不妊で苦しむのかについて見ることによって、生殖技術を女性の視点から考えていきます。

事前申し込み不要どなた様も参加できます。



エルダリィ・スクール

# サクセスフル・エイジングへの挑戦

男女ともに“人生80年”ということがほぼ可能となった今日、第一線を退いた後の20年余を、健康で明るく健やかに生きることが誰もの願いであると思います。このスクールでは、より健康で活力ある毎日を手に入れるためのからだ作り、あたま作り、そして病気予防や介護予防などに関する知識と戦略について、共に学びたいと考えています。

受講料は無料です

会場：新潟県立看護大学

開催日時	テーマ	講 師	講義内容
<b>第1回</b> 平成15年 <b>10月4日(土)</b> 13:00～15:00	からだを自己 点検する コツとワザ	<b>田中キミ子</b> (たなかきみこ) 新潟県立看護大学 教授	年齢とともに変化する生理的現象を理解し、からだところ の両面からその変化をチェックするコツとワザを身につ けて、老化を進める病気の予防についてともに考えましょ う。
<b>第2回</b> 平成15年 <b>10月18日(土)</b> 13:00～15:00	長寿のための 食事学	<b>清水 富弘</b> (しみずとみひろ) 上越教育大学 助教授	20世紀の初頭には短命国（平均寿命30歳代）だった日本 が、世界一の長寿国となった要因は「食生活」とされてい ます。そこで、長寿のための食事・栄養について一緒に考 えていきたいと思います。
<b>第3回</b> 平成15年 <b>11月8日(土)</b> 13:00～15:00	楽しい体力維持 の戦略	<b>林 従子</b> (はやしよりこ) 板倉町役場保健師長  <b>澁谷 房子</b> (しぶやふさこ) 板倉町教育委員会 社会教育主事	ミニトランポリンの上でウォーキングをすることにより自 然に身体の調整が養われバランス感覚を保つことにつな がり、ふらつきや転倒が予防できます。トランポビクス（有 酸素運動）を体験してもらうことによって身体が喜び、心 がおどる楽しさを味わっていただきます。
<b>第4回</b> 平成15年 <b>11月29日(土)</b> 13:00～15:00	物忘れをふせぐ 戦略	<b>北川 公子</b> (きたがわきみこ) 新潟県立看護大学 助教授	「最近、人の名前がなかなかでてこない」とか、「（台所 までやって来て）今、何を取りに来たんだったけ？」とい った経験が、年とともに増えていることを気に病んでいま せんか。物忘れを過剰に恐れるのではなく、物忘れとうま く付き合いながら、記憶力を維持し、補強する方法を、皆 さんとともに学びたいと思います。
<b>第5回</b> 平成15年 <b>12月13日(土)</b> 13:00～15:00	もしもに備えて～ 介護が必要になっ たとき	<b>中島紀恵子</b> (なかじまきえこ) 新潟県立看護大学 学長	“もしも～”は人間として過不足なく丁度よく生きるた めの、発達課題を学習するキーワードになる言葉である。 老年期における“もしも～”は、うまく介護されることと、 うまく介護すること、別の言葉でいえば、ほどよい自立と 依存的自立を両立させて生きることのできる備えのコツと ワザを身につけていく知恵をもつことである。

平成15年9月26日(金)までに、電話、FAX、e-mailのいずれかで、事前申し込みしてください。氏名、年齢、性別、電話番号、住所、参加人数をお知らせください。定員は50名で、5回全て参加可能な方を優先し申し込み順に受け付けます。70歳以上の方大歓迎です。

# \*\*\* 看護研究の基礎知識 \*\*\*

…もくひょう…

看護の日常業務の中から研究テーマを掘り起こすことの必要性を学び、さらに研究計画の立て方、研究における倫理的配慮、研究方法、論文の書き方など、一連のプロセスから看護研究の基礎知識を習得することを目標とします。

受講料は無料です

会場：新潟県立看護大学

平成15年7月26日(土)・27日(日)

開催日時	テーマ	講 師	講義内容
<b>第1回</b> 平成15年 <b>7月26日(土)</b> 9:20～12:20 (受付開校式) 9:00～	<b>講義Ⅰ</b> 看護研究の 意義と役割	<b>北川 公子</b> (きたがわきみこ) 新潟県立看護大学 助教授	看護研究の意義と役割 ・「知る」ことへの希求 ・研究の意義 ・看護研究の動向と課題 ・看護研究における倫理的配慮
<b>第2回</b> 平成15年 <b>7月27日(日)</b> 9:20～12:20	<b>講義Ⅱ</b> 看護研究の 基礎	<b>朝倉 京子</b> (あさくらきょうこ) 新潟県立看護大学 助教授	看護研究の基礎 ・研究のトピックをみつける ・文献検索と文献検討 ・研究疑問の洗練と研究背景の展開 ・研究計画書の作成
<b>第3回</b> 平成15年 <b>7月27日(日)</b> 13:00～16:00 (閉校式)	<b>講義Ⅲ</b> 研究方法の 選択 他		研究方法の選択 ・量的研究デザイン ・質的研究デザイン データ収集方法 データ分析方法 研究結果をまとめ、結論を導く 論文の作成と投稿

\*7月26日(土)13:00～15:30まで新潟県立看護大学開学2周年記念講演に参加していただきます。

※参加ご希望の方(県内看護職者)は、電話、FAX、e-mailのいずれかで、氏名、自宅住所、勤務先、連絡先電話番号をお知らせください。定員は100名で、全日程参加可能な方に限ります。申し込み締め切り日は平成15年5月30日(金)です。なお、昼食は各自でご用意ください。



## 看護英会話夏期セミナー

医療現場で、英語を話す患者さんが訪れることで、英語でコミュニケーションを行う機会が増えているのではないのでしょうか。本講座では、そのような現状に対応できるよう、初級から中級程度の看護英会話をプログラムしてみました。外国人講師との実践的な練習の場も設けましたので、ぜひご参加ください。

受講料は無料です

平成15年8月25日(月)・26日(火)

会場：新潟県立看護大学

開催日時	内 容	講 師
<b>第1日</b> 平成15年 <b>8月25日(月)</b> 受付開校式 9:30～ 1限 10:00～11:00 2限 11:10～12:10 昼食 3限 13:00～14:00 4限 14:10～15:10	1限 電話での会話など 2限 診察室での会話など 3限 検査室での会話など 4限 入院時の会話など	<b>中村 博生</b> (なかむらひろき) 新潟県立看護大学助教授  <b>山本 淳子</b> (やまもとじゅんこ) 新潟県立看護大学 講師 外国人講師
<b>第2日</b> 平成15年 <b>8月26日(火)</b> 1限 10:00～11:00 2限 11:10～12:10 昼食 3限 13:00～14:00 4限 14:10～15:10 閉校式	1限 ベッドサイドの排泄援助に関する会話など 2限 全身清拭の際の会話など 3限 外国人講師によるレッスン 4限 外国人講師によるレッスン	

\*必要に応じて2コースに分けることがあります。

※参加ご希望の方(県内看護職者)は、電話、FAX、e-mailのいずれかで、氏名、自宅住所、勤務先、連絡先電話番号をお知らせください。定員は40名で、全日程参加可能な方が優先されます。申し込み締め切り日は平成15年6月末日です。なお、昼食は各自でご用意ください。

# 看護情報処理冬期セミナー

日常業務の中で利用する看護情報をより効率的に処理できることを目的として、習熟の程度に応じて学習できるようにプログラムしました。事前の学習は不要です。また、レベルは、初級から中級を想定していますが、初心者の方も大歓迎です。

受講料は無料です

## 開催日

第1回：平成15年12月18日(木)・19日(金)  
第2回：平成16年 1月14日(水)・15日(木)

会場：新潟県立看護大学

開催日時	内 容	講 師
<b>1日目</b> 受付開校式 10:00～ 1限 10:30～11:50 昼食 2限 12:50～13:50 3限 14:00～15:00 4限 15:10～16:10	1限 Windows基本操作 2限 表計算の基本的な仕組み 3限 インターネットを使った看護情報の収集 4限 表計算と集計、グラフ、関数、質問など	<b>橋本 明浩</b> (はしもとあきひろ) 新潟県立看護大学助教授
<b>2日目</b> 1限 10:00～11:00 2限 11:10～12:10 昼食 3限 13:00～14:00 4限 14:10～15:30 閉校式	1限 マクロ処理 2限 統計分析 3限 より高度な仕組みへ 4限 総合討論	

※参加ご希望の方(県内看護職者)は、電話、FAX、e-mailのいずれかで、氏名、自宅住所、勤務先、連絡先電話番号をお知らせください。定員は各回10名で、全日程参加可能な方が優先されます。なお、第1回と第2回は同じ内容となりますから、双方受講することはできません。申し込みの締め切りは平成15年10月末日です。また、昼食は各自でご用意ください。





# 新潟県立看護大学

看護学部 看護学科

住所／新潟県上越市新南町240番地  
 問い合わせ先／〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地  
 新潟県立看護大学 教務学生課  
 TEL 025-526-2811 FAX025-526-2815  
 E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp